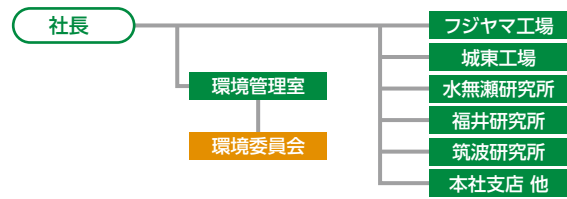


環境マネジメント推進体制

環境管理室が全社の環境問題を統括し、運営については、各部門の委員により構成された環境委員が具体的な現場把握と管理推進に当たります。なお、環境負荷の大きい研究所・工場は、それぞれが小委員会を設置し、これに取り組みます。



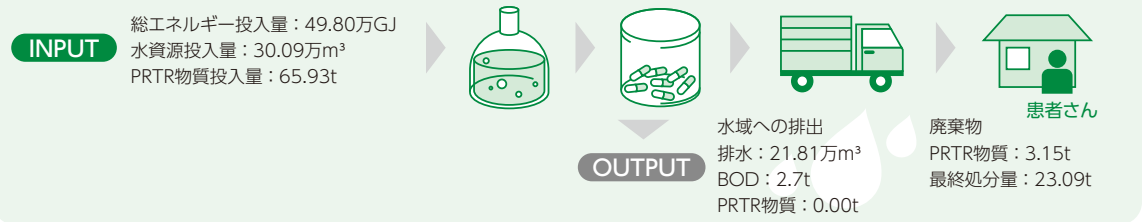
生産物流部門の生産拠点(フジヤマ工場・城東工場)では「小野薬品環境指針」の「わたしたちは、環境に対する企業の社会的責任を認識し、事業活動のあらゆる分野において環境に配慮した活動で豊かな地球環境実現に向けて努力します。」に基づきISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを構築し、それを運用するために環境方針を定めています。

小野薬品と環境のかかわり

環境負荷の全体像

■2012年度のエコバランス

INPUT・OUTPUTを毎年定期的把握することによって、環境負荷軽減を図るための目安としています。



地球温暖化対策

当社では、原薬の合成工程を有していないこともあり、二酸化炭素(CO₂)、廃棄物、化学物質ともに製薬会社としては排出量は低い値を示しており、環境に関する物量数値については安心していただける水準であると認識しています。

しかしながら、一般的に京都議定書が1990年比の総量の削減をテーマとしていることを考えると、当社においてはCO₂、廃棄物、化学物質ともに総量では1990年度比で増加しています。これは、1990年と比較すれば、売

上高は約2倍、研究開発費は約3倍の規模に成長したことによるものです。この間、継続的に環境負荷軽減のための努力はしているものの、会社の成長に伴う環境負荷量の増加が環境負荷抑制量を上回る結果となりました。今後の総量レベルでの環境負荷削減は、当社にとって継続的な検討課題であると認識しています。新たな数値目標については、下記数値を達成できるよう、さまざまな角度から検討し、努力を続けていきたいと考えています。

温室効果ガスの削減

環境行動計画

温室効果ガスの排出量を、2020年のCO₂排出量を2005年排出量に対し23%削減する。

当社のエネルギー使用量は、高効率機器導入や節電対策により、2012年度は2011年度に比べ1.05%削減されていますが、電力会社が公表している温室効果ガス算定排出係数が原子力発電所の運転停止により大幅に悪化しているため、当社の2012年度のエネルギー起源のCO₂排出量も増加しています。(各データ集計サイトの数値は、省エネルギー庁に提出している定期報告書から抜粋)